

令和3年度 学校評価における自己評価について（報告）

認定こども園 鳥取第三幼稚園

1、学校の教育目標

～風と砂と仲良し三園っ子～をキャッチフレーズに、「豊かな感性をもち、主体的に活動する子どもを育てる」を教育目標とし、幼児期にふさわしい環境のもとで、多様な体験を通して子どもの主体的な活動を促し、一人一人の特性に応じた教育・保育をめざす。また、心身ともに健康で、調和のとれた豊かな人間性をもった子どもを育てる。

【めざす子ども像】

- 1、自分で考え、自主的に行動する子ども
- 2、健やかな心と身体をもち、たくましく活動する子ども
- 3、友達の気持ちを思い、誰とでも仲良く遊ぶ子ども
- 4、素直に感謝する心をもち、感性豊かな子ども
- 5、豊かな生活経験の中から、物事を知的に理解し判断できる子ども

2、本年度に定めた重点に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校教育の具体的な目標や計画

本年度は、『触れて感じて考えて子どもが主役の保育』～身近な鳥取砂丘で心動かされる体験を通して育ちを考える～を研究テーマにあげ、地域資源の十分な活用方法を見出し、子どもがその環境を通して主体的に関わることができるような保育環境を整え、感じる力や考える力を育てる。

研究の視点として、まずは、研究テーマの捉え方を職員が共通理解し、育てたい子ども像を明確にする。そして、子ども達が主体的に行動し、身近な人や物、自然物への興味関心を深めていくための援助や環境について探る。自然の中での直接体験を通して、豊かな感性や考える力の育ちを探り、その援助の在り方を考える。

園周辺の環境や地域資源に目を向け、園外保育に出かけたり、栽培活動を通して生長を感じたりしながら、五感を刺激してわくわくドキドキ心動かされる体験を味わうことができるように計画する。特に鳥取砂丘へは四季を通して出かけ、様々な発見を楽しむことができるようにする。

新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、異年齢の友達や地域の方、近隣の小学生、中学生、高校生等いろいろな人と人との関わる機会を設ける。また、中ノ郷中学校区の小学校や保育園とアプローチ、接続カリキュラムの見直しを行い、年長組の子ども達が小学校にスムーズに移行できるようにする。

園舎改築工事（第1期工事）に伴い、子ども達が安全にそして安心して過ごせる環境づくりに努める。特に、園庭が狭くなるため、戸外活動について見直しを図る。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
<p>(1) 本年度の研究テーマ 「触れて感じて考えて 子どもが主役の保育」 についての取り組み</p>	A	<p>保育教諭が探求心をもって自然に関わることで、子ども達がさまざまな自然物に目を向けて発見や驚き、不思議さを楽しみ、自ら遊びを考え楽しもうとする子どもの姿につながった。また、同じ場所・同じ自然物であっても季節の変化に応じて、保育内容を構築する。その中で保育教諭は、その時期に適した教材研究を行う面白さを知ることができた。</p> <p>園周辺の環境（鳥取砂丘等）に四季を通じて出かけ、季節ごとの自然の様子を五感を通して感じる事ができた。ともに感動し、ともに発見を喜ぶ時、たくさんの言葉と豊かな感性の育みへとつながった。</p>
<p>(2) 身近な自然を生かした 保育</p>	A	<p>鳥取砂丘近くでのらっきょう堀り体験では、実際に一人一人がらっきょうを堀り、掘りたてのらっきょうを持ち帰りみんなでらっきょう漬けをし食べることができた。また、各家庭にも持ち帰り味わうことにより、家族と一緒に収穫の喜びを感じる事ができた。</p> <p>園舎改築工事に伴い、園庭の畑はなく、さつまいも栽培は、近隣の畑を借用して行った。水やりに出かけたり草取りに出かけたりしながら生長を近くで見て収穫を迎えることができた。</p> <p>野菜（イチゴ・ミニトマト・きゅうり・ピーマン・コーン）は、プランターで栽培した。水やり、葉が茂る様子など生長を見ることにより、収穫の喜びが一層高まった。コーンは、収穫した後クッキングでポップコーンを作り、子ども達は、とても喜んで食べた。</p> <p>米栽培は、職員の家族が所有する田んぼを借用して行った。稲刈り後の脱穀やもみ刷り等、年長児がすべて手作業で行い、3月には、各クラスにお米をプレゼントして、全園児がおにぎりを作って食べた。収穫して食するまでの過程を通して、お米（食べ物）の大切さを知ることができた。</p>

<p>(3) 人との関わりの充実</p>	<p>A</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して、小学生や中学生、高齢者施設の方と直接会っての交流はできなかった。</p> <p>保育室は平屋なので、日々子ども達は他学年の友達と一緒に遊び自然に交流する姿が見られる。各学年が、栽培した野菜を、全学年で分け合い食する活動は、他学年の思いやりに触れる活動となった。</p> <p>地域の方から、花の苗をたくさんいただきみんなで植えた。また、地域の絵本の読み聞かせボランティアの方に来園していただき絵本などを読んでもらった。また、3月に年長児は、一人一人に手作りミニ絵本をいただき、とても喜んだ。地域の方に見守られながら過ごせることをとてもうれしく感じた。</p>
<p>(4) 幼小連携の充実</p>	<p>B</p>	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して、地域の小学生（1年生）との交流はできなかった。しかし、接続プログラムであるアプローチ・スタートカリキュラムでは、現在の子どもの姿に合わせた見直し（カリキュラムマネジメント）を行い保育園・幼稚園・小学校が1つの方向に向かって、取り組むことができた。</p> <p>また、地域の保育園の年長担任の意見交換を行い、就学に向けて同じ方向で保育を進めていくことができた。</p>
<p>(5) 園舎改築に伴う安全面に留意した保育</p>	<p>B</p>	<p>本格的に園舎改築（第1期工事）が始まり、工事車両の出入り等があり園庭が狭くなった。工事関係者との連絡を密にとり、安全面に留意して保育を行った。</p> <p>近隣の公園に徒歩で出かけたり、園バスを利用して鳥取砂丘や公園に出かけたりするようにした。また、鳥取城北高校のグラウンドを利用してサッカー教室を行い、身体を動かして遊ぶ活動を取り入れるようにした。運動量は、例年よりまだまだ少なく感じるので、今後も運動活動について考えていきたい。</p>

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>今年度は『触れて感じて考えて子どもが主役の保育』～身近な鳥取砂丘で心動かされる体験を通して育ちを考える～を研究テーマとして研究を行った。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮しながら、積極的に園外での活動を取り入れ、地域の自然に目を向けるように取り組んだ。事前に保育教諭が出かけ安全面について確認し、子ども達が安全に楽しく園外活動ができるよう取り組んだ。そして、まず保育教諭が、地域の自然に目を向けること、そして、そこで出会った環境、自然物などを保育に取り入れ、次の活動につなげることを意識して行うようにした。不思議に思ったことを友達や保育教諭と共有し、自らが図鑑などを利用して調べる姿など、子ども達が主体的に自然と関わる中で、改めて地域の良さを知り、地域を大切に思う心を育むことへとつながった。</p> <p>幼小連携については、対面での交流はできなかったが、今年度も近隣の小学校2校、保育園・認定こども園5園合同でアプローチカリキュラムの見直しを行った。意見を出し合いカリキュラムマネジメントをすることは、園から小学校への移行がより円滑に行えるのではないかと考える。</p> <p>新園舎建築に向け、仮設園舎での環境に慣れ、園舎には子ども達のにぎやかな声と笑顔がいっぱいである。園庭が狭く遊ぶスペースの確保が難しいこともあるが、今ある環境の中で、子ども達が伸び伸びと安心して笑顔で過ごすことのできる環境づくりについて考える良いきっかけとなった。これからも今ある環境の中で、園児が安全に笑顔で過ごし、そして保護者の方に安心して送り出していただけるような園でありたいと思う。</p>

● (3, 4) の評価結果

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園の環境を生かした保育を考 える	令和4年度は、新園舎建築に伴い第2期工事が始まる。園庭が狭くなり、遊戯室がない中、子ども達が安心して楽しむことができる環境づくりに努める。
園周辺の環境を生かした保育 の充実を図る	自然に恵まれた環境を生かし、四季を通して、園外に出かけ、友達と一緒に活動する楽しさを味わい、五感を刺激する活動を行う中で主体的に活動する子どもの姿を大切に する。子ども達の体力や運動面の向上を図る。
規範意識の芽生えを育む取 組み	話を聞く姿勢、態度、あいさつや靴をそろえることなど中ノ郷中学校区（中学校・小学校・保育園・幼稚園）との共通の取り組みについて意識して取り組んでいきたい。また、交通ルールについて知り、守ること等、日常生活で大切なことを常日頃より知らせていくようにする。
新型コロナウイルス感染症の 感染防止対策の継続	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して、引き続き、園内消毒、マスクの着用、手洗い、手指の消毒の徹底など、引き続き取り組む。